



連携事例 40

R7.3

# SDGs 子どもクッキング

～もったいないをなくして美味しく食べる～

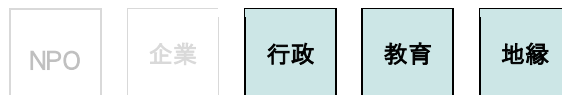


## 写真の説明

\*ぬるぬるする鶏肉を切っているところ

学生ボランティアが見守り頑張って切りました

## ■協働パートナーの種別



## ■事業運営団体

松戸市新松戸地区社会福祉協議会

## ■協働パートナー

- ・松戸市新松戸商店会連合会
- ・流通経済大学ダイバーシティ共創センター

計 3 団体

## ■事業費

8万円

## ■資金調達手段

- ・運営団体負担

## 事業概要

地域の農家さんや商店会より食材を提供してもらい、食材の勿体無いを大切にして使えるところと使えないところを見極めて、地域の小中学生が自由な発想で調理する事業

## ○協働までの経緯

子どもたちに、SDGsの「12 つくる責任 つかう責任」を理解してもらうことを目的としながら、学生にとっては大学の学びに必要な実習ができること、商店にとっては食材の提供により地域住民から認知されること、そして社会福祉協議会にとっては子育て世帯への支援ができることが、それぞれのメリットになるのではと思います、連携団体にお声がけしました。

## ○主な事業内容(年間スケジュール等)

- ① 活動内容 令和6年度実施済み日程 4/6 6/2 7/6 9/7 延 39名の小中学生と学生ボランティア12名・地域サポーター9名・運営委員4名で参加者を募り、事前ミーティング・食材集め・実施して反省会を行い、次回以降に反映させる
- ② 活動内容 年度内に計6回実施予定  
随時、参加者の事前確認・アレルギー問題などの確認をしています

## 🍷 主な協働パートナーとの役割分担

【協議会】松戸市新松戸地区社会福祉協議会

＊ 事業の企画、参加者募集、開催準備をして、  
参加者の管理と当日の費用を負担する

【学校】流通経済大学ダイバーシティ共創センター

＊ 円滑に活動するためにボランティアとして学生が  
参加する

【地縁組織】松戸市新松戸商店会連合会

＊ 食材の提供

## 🍷 協働事業によって生まれた成果

- ・流通経済大学の学生にとっては専攻している内容について実践した学びとなっている
- ・食材を提供してくださる商店の方にはお店の宣伝となり来店者が増えている
- ・新松戸社会福祉協議会にとっては子育て世帯に地区社協の認知度が高くなり、他の事業においても参加者数が増えている

## 🍷 今後力を入れていきたいこと

- 1、廃棄食材を無駄なく使って食育を学ぶことができる活動がたくさん地域で増える事が望ましい
- 2、ひとり親家庭や生活困窮家庭のお子様たちに自律して自分で調理もできるような取り組みを増やしていきたい



## ♡ コラボのコツ!!

- ★コツ1 事業を開催する上で何が・誰が必要か話し合っ探す
- ★コツ2 事業を協力していただく方を地域の中から見つける
- ★コツ3 コラボする上でのメリットを伝える

コツに関するコメント

事業の活動に理解していただき各々のメリットを伝えて協力してもらう

### 協働事例プロフィール

【活動開始年】 2022年 4月 【活動のPR手法】LINE 公式アカウント ID: @573mgjgy

【この事業で活用した補助金】 特になし

【表彰歴・マスコミ掲載歴等】 地域新聞(令和5年2月)

【問い合わせ先】 担当者: 木村久仁江 電話番号: 090-8507-8092

メールアドレス: soso-ku@soso.or.jp